

新註

三教指歸

特 261

221



始



特26
22



教
指
歸



凡例

- 一 本書は教科書用の目的を以て編纂せり。
- 一 本書の底本には元祿十年版の蓮體師書の板本を用ひ、享保六年板の同師書の板本、通玄師の簡註、弘法大師全集等に照合せり。
- 一 本書の新註は運敞師の刪補、通玄師の簡註等に基づけり。

昭和十四年三月三日

編者

鱗卦……鱗は人首鱗身なりし伏犧氏のこと、今は伏犧氏が作りし卦のこと。
 聘篇……聘は老子の諡、されば老子の作りし道徳經二篇を指す。
 志學……十五歳のこと。
 外氏……大師の母方の叔父たる阿刀大足を指す。
 二九……十八歳。
 槐市……大學のこと。
 雪螢……孫康が雪の光にて讀書し、車胤が螢の光にて讀書せし故事で、發奮努力の意味に用ふ。
 繩難……孫康が首に繩を懸けて睡魔を防ぎ乍ら勉強し、また蘇秦が錐を股に刺して睡魔を醒まし乍ら勉強せし故事。
 一沙門……權操大徳を指す。

三教指歸卷上 并序

文之起必有由。天朗則垂象。人感則含筆。是故鱗卦。聃篇周詩。楚賦動乎中書。于紙雖云凡聖。殊貫古今。異時人之寫憤。何不言志。

余年志學。就外氏阿二千石文學。身伏膺。鑽仰二九。遊聽槐市。拉雪螢於猶怠。怒繩錐之不勤。爰有一沙門。呈余虛空藏。聞持法。其經說若人。依法誦此真言。一百萬遍。即得一切教法。文義暗記於焉。信大聖之誠言。望飛燄於鑽燧。躋攀阿國大瀧嶽。勤

朝市榮華……名聞利欲のこと。
 巖藪……山野のこと。
 輕肥流水……輕き衣と肥えたる馬。流水は車のこと、されば富貴の人をいふ。
 電幻之歎……電の如く、幻の如く瞬時に消えさるること無常をいふ。
 支離懸鶉……支離は莊子に説ける支離疏のこと、鶉は糞の糞たるもの、懸鶉は糞糞物のこと、貧人をいふ。
 係風……風を繋ぎ留め得ざる如く、眞魚が出家の志を阻止し得ざること。
 五常……仁・義・禮・智・信。

念土州室戶崎谷不惜響明星來影遂乃朝市榮華
 念念厭之巖藪煙霞日夕飢之看輕肥流水則電幻
 之歎忽起見支離懸鶉則因果之哀不休觸目勸我
 誰能係風
 爰有一多親識縛我以五常索斷我以乖忠孝余思
 物情不一飛沈異性是故聖者驅人教網三種所謂
 釋李孔也雖淺深有隔並皆聖說若入一羅何乖忠
 孝
 復有一表甥性則很戾鷹犬酒色晝夜爲樂博戲遊
 俠以爲常事顧其習性陶染所致也

彼此兩事每日起予所以請龜毛以爲儒客要兎角
 而作主人邀虛亡士張入道旨屈假名兒示出世趣
 俱陳楯戟並箴蛭公勒成三卷名曰三教指歸唯寫
 憤懣之逸氣誰望他家之披覽于時延曆十六年臘
 月之一日也

九經……易經・書經・詩經・周禮・儀禮・禮記・春秋・左氏傳・穀梁傳。三史……史記・漢書・漢記。三憤……伏犧・神農・黃帝の書。蘇秦……東周洛陽の人、辯舌に勝れ、辯舌を以て六國の宰相となる。晏平……秦の夷維の人、齊の靈公・莊公・景公の三代に事へて節儉力行を以て著る。張儀……魏の人、蘇秦と同時代にして秦の相となり、辯舌勝れ、連衡の謀をなす。郭象……字は子玄、晋時代の老莊學者、能く清言し、懸河の辯を以て著る。

龜毛先生論一首

有。龜。毛。先。生。天。姿。辯。捷。面。容。魁。梧。九。經。三。史。括。囊。心。藏。三。憤。八。索。諳。憶。意。府。三。寸。纜。發。枯。樹。榮。華。一。言。僅。陳。曝。骸。反。穴。蘇。秦。晏。平。對。此。卷。舌。張。儀。郭。象。遙。瞻。飲。聲。

偶。就。休。暇。之。日。投。兎。角。公。之。館。爰。則。肆。筵。設。席。薦。饌。飛。蓋。三。獻。已。訖。促。膝。談。話。

於。是。兎。角。公。之。外。甥。有。蛭。牙。公。子。者。其。爲。人。也。狼。心。很。戾。不。纏。教。誘。虎。性。暴。惡。匪。羈。禮。義。博。戲。爲。業。鷹。犬。爲。事。遊。俠。無。賴。奢。慢。有。餘。不。信。因。果。不。諾。罪。福。醉。飲。

飽。飡。嗜。色。沈。寢。親。戚。有。病。曾。無。愁。心。疎。人。相。對。莫。敬。接。志。狎。侮。父。兄。侈。凌。耆。宿。

于。時。兎。角。公。語。龜。毛。先。生。曰。蓋。聞。王。豹。好。謠。已。變。高。唐。縱。之。翫。書。亦。化。巴。蜀。橘。柚。徙。陽。自。然。爲。枳。曲。蓬。糅。麻。不。扶。自。直。庶。幾。先。生。披。陳。祕。鍵。覺。示。頑。心。扣。摠。隱。鈴。教。悟。恣。意。

先生曰吾聞上智不教下愚不移古聖猶痛今愚何易

兔角公曰夫體物緣情先賢所論乘時擒藻振古所貴故韋昭譏博之篇元淑疾邪之賦並載細素經葉

耆宿……年老いて經驗、徳望などのある人。
王豹……衛の人、謠に巧みなり。
高唐……齊國の色。
縱之……名は文翁、字は縱之といひ、江舒城の人、教育の振興を計り、大いに巴蜀の地の學藝を盛ならしむ。
憲意……愚心のこと。
擒藻……文章を述べること。
韋昭……韋昭字は弘嗣、吳郡の人、本名は昭、太子和の命を受けて博奕論を造る。
元淑……趙壹字は元淑、漢陽西縣の人、才を恃んで倨傲なりし爲め世に容れられず、依つて世を刺り邪を疾むの賦を作つてその譏憤を舒ぶ。

楚璞……楚山より出でし
未だ磨かざる玉のこと
蜀錦……蜀の成都にて織
戴淵……志……戴淵もと劫
盗なりしも後志を變へ
周處……改心……周處若き頃
兇暴にして郷人に恐ま
る。後心を改めて修業
し。忠臣……孝子の名を揚ぐ。
夏殷……村王……夏の名を揚ぐ。
したため滅亡す。暴逆なり

伶倫……黃帝の臣にして
音樂家、特に耳の聴か
りし人。
離朱……百歩離れた處で
針の先を明察せしとい
ふ程に眼力の勝れた人
告面……儒教の孝行で
子たるもの外出に際し
ては親に告げ、歸宅し
ては親の安否を伺ふべ
きをいふ。
州吁……衛の莊公の子に
して兄桓公を殺せし程
の亂人なり。
嗣宗……名は阮籍字は嗣
宗、竹林七賢人の一人
で至孝なりしも、母の
臨終に圍蒔して止めず
といふ。

愛子之想……楚荆經に曰
く、肉に對してこれ我
が前世の父母妻子兄弟
の内なりと觀じて食は
ざれと。
己尖之顧……六道の衆生
は我が故身なりと顧觀
して殺食せざること。
草葉之誠……飲酒を禁ず
る誠。
麻子之責……不遇妻食の
誠。
登徒子……楚の襄王の大
夫で、醜婦を妻とし五
子を擧ぐ、よりに好色
漢とさる。
術婆伽……智度論に出づ
る寓話中の人で戀の奴
とたりし。漁夫の名は
老猿……毒蛇……老猿は
毒蛇に林に出づる寓話で
提攜……不戒の旨を明す。
共……東晋の畢卓
の故事で酒看に耽溺す
ること。潭山の螢光
數十……車胤の故事
を指す。
一……青鳧……青鳧は錢の
ことを杖頭にかけ、常に百
錢を杖頭にかけ、常に百
錢を入つて酒を飲み、酒
政を顧ざりしをいふ。

成照車器人待切。瑳致穿犀才。從教如圓則庸夫子。
可登三公。逆諫似方則帝皇。裔反爲匹。備木從繩直。
已聞昔聽人容。諫聖豈今彼空。上達天子下及凡童。
未有不學而能覺。乖教以自通。夏殷傾滅。周漢興隆。
並是前覆之龜鏡。後誠之美風。可不戒哉。可不慎哉。
宜汝蛭牙公子。借耳伶倫貸目。離朱恭聞吾誨。覽汝
迷衢。
夫汝之爲性。上侮二親無告。面孝下凌萬民。莫隱恤。
慈或弋獵爲宗。跋涉山坳。或釣罟爲業。檝櫂溟海。終
日謔浪已過州吁。達夜博奕亦踰嗣宗。話言遠離寢。

食盡忘水鏡。冰霜之行盡滅。溪壑貪婪之情。競熾咀
嚼毛類。既如師虎。喫嗽鱗族。亦過鯨鯢。曾無愛子之
想。豈有己穴之顧。嗜酒酩酊。渴。猩懷耻。趁逐望食。飢
蛭非儔。若蝟若蟮。不顧艸葉之誠。靡明靡晦。誰致麻
子之責。恒見蓬頭婢妾。已過登徒子之好色。況於冶
容好婦。寧莫術婆伽之燒胸。春馬夏犬之迷已。煽胸
臆。老猿毒蛇之觀。何起心意。向倡樓而喧樂。恰似獼
猴之戲。杪臨學堂。而欠伸還。若兔之睡。蔭懸首刺。
股之勤。全闕心裏。提觴捕蟹之行。專蘊胸中。數十熠
耀不聚囊中。一百青鳧常懸杖頭。若儻入寺。見佛不

一稱之因等……法華經の南無佛と一稱すれば皆已に佛道を成ずといへる故事を指す。
 四珠之果等……阿闍世王受記經の燈明に關する故事で、貧者の一燈の供養よく菩提を成ずるをいふ。
 十韻之銘……崔子玉の座右銘を指す。
 三緘之誠……孔子家語觀周卷三に説かれたる多言の誠を指す。
 譖言之鏤骨金……衆口金を鏤し積毀骨を銷すことと譖言之恐るべきをいふ。
 禹筆……禹は堯の司空となり一切のものをよく辨じ、變と共に山海經を著はす。
 隸算……隸首は黃帝の吏で算數を作りし人。
 記……禮記

懺罪咎還作邪心。未知一稱之因。遂爲菩提。四珠之果。終登聖位。過庭蒙誨。不誅己惡。翻恨提撕。豈思諄諄之意。切於猶子。懃懃之思。重於比兒。好談人短。莫顧十韻之銘。屢事多言。不鑒三緘之誠。明知譖言之鏤骨金。不慎樞機之發榮辱。如此品類。寔繁有徒。禹筆何書。隸算豈計。如復飽食滋味。徒勞百年。既同禽獸。煥衣錦繡。空過四運。亦如犬豚。記云。父母有疾。冠者不櫛。行起不翔。琴瑟不御。酒不至變。笑不至矧。此乃思親切骨。不敢容裝。又云。隣有喪。春不相。里有殯。街不歌。是復與人共憂。不別親疎。其於疎遠。如是於

鸚猩……鸚鵡と猩々で禽獸の意。
 流血……魯の高柴の至孝の故事。
 出竟……郭巨なるものゝ至孝の故事。
 抽箏……孟宗が母に對する至孝の故事。
 折檻……魯の朱雲の至忠の故事。
 壞疎……純の師經の至忠の故事。
 出肝……衛の弘演の至忠の故事。
 割心……殷の比干の至忠の故事。
 比弘……比干と弘演の二忠臣。
 東海西河……東海の包咸と西河の子夏とを指し、共に論議に巧なりしも。
 南楚西蜀……南楚の屈原と西蜀の司馬相如等を指し、何れも文學に秀。
 鐘張王歐……鐘繇・張芝・王羲之・歐陽通等の諸氏で、詢・何れも書家の名。
 落烏哭猿……落烏・哭猿・何れも書家の名。
 養更蒲……養更・蒲且子等にて、何れも弓の名。

呢近如彼。故親族不豫。莫迎醫。嘗藥之誠。則賢士哲。夫側目流汗。閭巷有憂。無相愁問。慰之情。則傍親有識。寒心入地。形殊禽獸。何同木石。體如人類。何似鸚猩。嚮使蛭牙。公子若能移翫惡之心。專行孝德。則流血出。瓮抽箏。躍魚之感。帙孟丁之輩。馳蒸蒸美。移忠義。則折檻壞疎。出肝割心之操。踰比弘之類。流諤諤譽。講論經典。東海西河。結舌辭謝。涉獵史籍。南楚西蜀。閉口揖讓。好書則鷓鴣翔。虎臥之字。鍾張王歐。擲毫懷耻。翫射則落烏哭猿之術。羿養更蒲。絕弦含歎。就於

張良孫子……張良も孫子
 三略……黄石公の作れる
 陶朱猗頓……陶朱も猗頓
 も共に巨萬の富を積め
 四知……陽穀の清廉潔白
 三顯……柳下惠の道に直
 き故事
 孟母……孟子の母の慎正
 孝威……孝威の清貧を意
 味す
 伯夷……伯夷叔齊の廉潔
 許由……許由が清廉方正
 扁鵲……扁鵲と華他で共
 匠輪……匠石と公輸般で
 共名匠
 叔度……叔度は黃憲字は叔
 庾嵩……庾嵩は庾頭字は子
 嵩

標囊黃卷……書帙と書籍
 吐握……周公の誠の故事
 三たび……三たびを吐くこと
 暫くも……暫くもにせぬこと
 書簡素鉛……紙や筆のこと

摧五鹿角……五鹿充宗は
 博學にして雄辯家、そ
 れを朱雲論争して負か
 す、朱雲列傳に於ける
 故事
 五十筵……戴憑が博學に
 して論議に秀でし故事
 孫馬……孫綽と司馬相如
 共に文人
 楊班……楊雄と班固で共
 に學者
 奏難駁……淮南王安が文
 を作ることの速なる故
 事
 賦鸚鵡……後漢の禰衡が
 文才に秀でたる故事
 漢製……文章を作ること
 魏侯之轄等……魏の文侯
 が股干木を拜せし故事
 扣角……齊の桓公に關す
 る故事で仕官を求むる
 義
 周王之輦等……周の西伯
 と太公望との故事
 彈鋏……馮驩と孟嘗君と
 に關する故事で立身を
 求むる義
 台鼎……三公の位をいふ
 槐棘……三公九卿の異稱
 干將……名劍の名

戰陣張良孫子慨三略之莫術赴於稼穡陶朱猗頓
 愁九穀之無貯莅政則跨四知而馳譽斷獄則超三
 黜而飛美清慎則孟母孝威之流廉潔則伯夷許由
 之侶若乃赴神醫道馳心工巧換心洗胃之術越扁
 華以馳奇斲蠅飛鳶之妙凌匠輪而翔異若如是則
 汪汪萬頃同彼叔度森森千仞比此庾嵩觀者深淺
 不測仰者高下不度
 猶須擇鄉爲家簡土爲屋握道爲床挈德爲褥席仁
 而坐枕義而臥被禮以寢衣信以行日慎一日時競
 一時孜孜鑽仰切切斟酌縹囊黃卷吐握不棄青簡

素鉛顛沛不離
 如是則會宴講義摧五鹿角諸生論難重五十筵森
 森辯泉與蒼海以沸涌彬彬筆峰共碧樹以縱榮玲
 玲玉振凌孫馬以連瑤擘擘金響踰楊斑而貫藥奏
 離騷不過時賦鸚鵡不加點翱翔詩賦之苑休息藻
 製之野然則翹翹車乘門外接軫粲粲玉帛囿中連
 塵魏侯之轄軾於蓬門何更扣角周王之輦吹於草
 廬何暇彈鋏不傲倅以登台鼎不自銜以齒槐棘拾
 青紫於地芥瞬目可致總印綬於股錐旋踵可期爰
 則移孝竭主流涕接僚佩干將以鏘鏘摺圭笏而濟

遊俗……生日のこと。
 返真……死すること。
 七梅之歎……詩經召南、
 標有梅の篇に出でたる
 故事。
 二女之嬪……堯がその二
 女を舜に嫁せしめし故
 事で尙書堯典に出づ。
 展季……柳下惠(字は展
 季)が故事を指す。
 伉儷……夫婦
 子登……晋の隠人孫登の
 こと。
 行雨之蛾眉……美女のこ
 と。
 飄雪之蟬鬢……美人のこ
 と。
 訝迎禮……娶妻の禮式。
 膝送……里歸りの儀式。

東鯨……爾雅に東方に比
 目魚あり、ならばざれ
 ば行かず、其の名を鯨
 といふとあるによる。
 南鶴……爾雅に南方に比
 翼の鳥あり、ならばざ
 れば飛ばず、其の名を
 鶴といふとあるによる。
 九族……高祖・曾祖・祖
 父・父母・自己・子・
 孫・曾孫・玄孫を云ふ。
 八珍……淳母・淳熬・炮
 炙・肝膾の八珍味のこ
 と。
 九醞……酒の名。
 八音……金・石・絲・竹・匏
 土・革・木にて作りし八
 種の樂器。
 投二轄……陳邈が賓客を
 引き留めんが爲めに賓
 客の車の轄を井戸に投
 ぜしといふ故事。

濟進退紫宸俯仰丹墀入議萬機譽溢四海出撫百
 姓毀斷衆舌名策簡牘榮流後裔高爵所綏美諡所
 贈豈非不朽之盛事哉何亦更加
 若復遊俗之前有日行樂返真之後莫人相娛天上
 牽牛猶歎獨住水中鴛鳥必歡比宿所以詩有七梅
 之歎書貽二女之嬪然則人非展季誰莫伉儷世異
 子登何可隻枕必須行雨之蛾眉筮彼姬氏飄雪之
 蟬鬢占此羌族轟轟訝輅隱隱溢衢蠹蠹送騎霈艾
 側邨從者躡踵袂幕蔭天徒御駕肩汗霖灑地紫蓋
 飛空而雲翔繡服拂地而風步盡訝迎禮極膝送義

同牢同尊合巹合體褰珠簾而對鳳儀拂金牀而比
 龍體凌琴瑟以調韻超膠漆而同契笑偕老於東鯨
 裡同穴於南鶴消一期愁快百年樂
 又時聚九族數速三友則陳八珍之嘉肴酌九醞之
 旨酒蜚羽觴以無數舉滿白而如環客調八音詠言
 歸之詩主投二轄稱途露之滋重日忘歸疊夜舞踏
 縱寰中之逸樂盡世上之賞般寧不樂哉
 宜蛭牙公子早改愚執專習余誨苟如此則事親之
 孝窮矣事君之忠備矣接友之美普也榮後之慶滿
 也立身之本揚名之要蓋如斯歟孔子曰耕也餒在

雀變爲蛤……禮記月令に
 季秋の月爵（爵は雀の
 こと）大水に入つて蛤
 となると云ふ。
 葛公白飯……葛公は葛玄
 で葛仙公とも稱し漢末
 の仙術家、己の食しつ
 るある白飯を蜂と化せ
 し故事。
 左慈改形……左慈字は元
 放、廬江の人、道術に
 勝る。彼は曹操に殺さ
 れんとせしとき化して
 羊となるの故事。

其中學也。祿在其中。誠哉斯言。當鏤書紳骨耳。
 粵蛭牙公子跪而稱曰。唯唯敬承命也。自今以後專
 心奉習。

於是兔角公下席再拜曰。猗歟善哉。昔聞雀變爲蛤。
 猶懷疑怪。今見蛭牙鳩心忽化作鷹。葛公白飯忽爲
 黃蜂。左慈改形倏作羊類。豈如先生之勝辯變狂爲
 聖乎。所謂乞漿得酒。打兔獲麀。斯之謂歟。聞詩聞禮
 之客。何過今日之勝誘。勝誨非只蛭牙之爲誠。余亦
 充終身之口實矣。
 三教指歸卷上終

三教指歸卷中

虛亡隱士論

虛亡隱士先在座側。詳愚淪智和光。示狂蓬亂之髮。
 踰登徒妻。濫縷之袍。超董威輩。傲然箕踞。莞爾微笑。
 陳唇緩頰。睚眦告曰。吁。吁。異哉。卿之投藥。前視千金
 之裘。猶對龍虎。今觀寸步之蛇。若瞻鱗鮑。如何不療
 己身之膏肓。輒爾發露。他人之腫脚。如卿療病。不如
 不治。

粵龜毛公愕然。顧眄有覩。進曰。先生若有異聞。請爲

董威……晋代の仙人で流
 浪乞食して身にぼろ
 ぼろの衣を纏ひし者。

膏肓……膏は心の下の微
 脂、肓は膈の上の薄
 膜、至虚の處にして針
 藥の及ばざる處。

啓沃之僕。不忍兔命帥。爾輒談之。伏乞先生莫祕春雷。

隱士曰。夫赫赫弘陽輝光。爛朗然盲瞽之流。不見其曜。礧礧霹靂。震響猛厲。然聾耳之族。不信彼響。矧太上祕錄言。邈凡耳。天尊隱術如何。妄說歎血遺盟。太難得聞。鏤骨示信。何曾易傳。所以者何。短綆汲水。懷疑井涸。小指測潮。猶謂底極。苟非其人。閉譚喉內。實非其器。祕櫃泉底。然後見機。始開擇人。乃傳於是。龜毛公等。並相語曰。昔漢帝冀仙。悃請王母。長房得術。亦學壺公。吾等邂逅。曾無邴原千里之尋。長

太上祕錄、天尊隱術……
兩者共に黃老の道を指す。
漢帝……漢の武帝が西王母を招きて長生を求めし故事、漢武内傳に出づ。
長房……費長房が老翁より仙術を學びし故事。
邴原千里等……邴原が千里を憚らずして遊學せし故事。
彭祖……彭祖は殷の大夫で、八百餘歳の長命を保ち、後に昇仙して去ると稱せらるる人。

有彭祖萬祀之壽。豈不美哉。亦非幸哉。三人並進。再拜稽顙。請隱士曰。重望垂誨。隱曰。築壇約誓。且示一二耳。
爰則承命。如言昇壇。結誓臨坎。請盟契事。已畢。增仰指誨。
隱曰。然矣。汝等恭聽。今當授子以不死之神術。說汝以長生之奇密。令汝得蜉蝣短齡。與龜鶴相競。跛驢駑足。與應龍齊駿。並三曜以終始。共八仙而相對。朝遊三嶼之銀臺。終日優遊。暮經五岳之金闕。達夜逍遙。

三曜……月・日・星。
八仙……蘇非・李上・左吳・陳由・伍被・雷被・毛被・晉昌の八人の仙人で淮南王劉安の高弟。
三嶼……蓬萊・方丈・瀛州の三神山で渤海にありといふ。
五岳……岱輿・員嶠・方壺・瀛州・蓬萊の五神山。

松喬……赤松子と王子喬
で共に長壽を得し仙人。

秦始皇……齊人徐市を遣
はして不老長壽の仙薬
を求めしむ。

樂太……前漢孝武帝の臣
で、道術を以て黄金を
作り、不死の神薬を造
るなど、嘘言を嘩して
五利將軍になりし人、
後に嘘言露見して誅せ
らる。
兩帝……秦の始皇と漢の
武帝。

龜毛等對曰。唯唯欲聞。隱曰。夫大鈞陶甄。無彼此異。洪鑪鎔鑄。離憎愛執。非獨厚彼松喬。薄此項顏。但善保彼性。與不能持耳。養性之方。久存之術。厥途極多。不能具述。聊撮大綱。示其少分。又昔秦始皇漢武帝。內心願仙。外事同俗。鐘鼓鏗鏘。已奪耳聰。錦繡粲爛。忽損目明。紅臉朱唇。不能暫離。鮮鱗生毛。不退片食。臥屍作觀。流血爲川。如是事類。難以陳說。流以涓滴。泄以尾閭。心行相違。徒深費勞。是猶覆方底於圓蓋。願其能合極功力於寒水。求其

飛焰。何其愚哉。然猥俗謂帝皇至貴。猶亦不得。而况凡人乎。以此爲虛誕。以此號妖狂。何其迷哉。樂太兩帝之徒。此乃道中之糟糠。好仙之瓦礫。深可惡之。甚夫如是。故傳必擇人。非以尊卑。宜汝等專心受學。無致後毀耳。能學之人。蓋異此歟。手足所及。多蟻不傷。身肉之物。精唾不寫。身離臭塵。心絕貪慾。目止遠視。耳無久聽。口息羸語。舌斷滋味。克孝克信。且仁且慈。蹶千金以如蠶芥。臨萬乘而如脫躡。視纖腰如鬼魅。見爵祿如腐鼠。怕乎無爲。澹然減事。然後始學。不異指掌。但俗人尤所翫好。則道侶

五穀……稻・麥・粟・黍・豆。又麻・黍・稷・麥・豆。五辛……韭・薤・葱・蒜・薑。鳩……毒鳥。鳩の羽を酒に浸して飲めば死すと云ふ。

醴醪……酒のこと。醴は甘酒、醪は濁酒。奉紀之鉞……抱朴子に説ける三尸といふ惡虫の故事。

蓬矢葦戟……蓬の矢と葦の戟は魔除けの仙具として用ふ。

呪禁……臨・兵・闘・者・皆・陳・列・前・行の九字の密呪。

扣天門……鼻口を開いて鼻息を調整すること。

醴泉……唾液のこと。

草芝穴芝……草芝は靈芝の類、穴芝は肉芝で肉芝の千萬年を経て、頭の上に向あり、腹に丹書の八字ある蟾蜍のこと。

伏苓成僊……共に仙薬。

甚。所。禁。忌。耳。若。能。離。此。得。仙。非。難。五。穀。者。腐。腑。之。毒。五。辛。者。損。目。之。鳩。醴。醪。者。斷。腸。之。劍。豚。魚。者。縮。壽。之。戟。蟬。鬚。蛾。眉。伐。命。之。斧。歌。舞。踊。躍。奪。紀。之。鉞。大。笑。大。喜。極。忿。極。哀。如。此。之。類。各。多。所。損。一。身。之。中。既。多。如。此。敵。若。不。絕。此。讎。長。生。久。存。未。有。所。聞。離。此。於。俗。尤。難。絕。此。得。仙。尤。易。必。須。先。察。其。要。乃。可。服。餌。耳。

白。朮。黃。精。松。脂。穀。實。之。類。以。除。內。疴。蓬。矢。葦。戟。神。符。咒。禁。之。族。以。防。外。難。呼。吸。候。時。緩。急。隨。節。扣。天。門。以。飲。醴。泉。掘。地。府。以。服。玉。石。草。芝。穴。芝。以。慰。朝。饑。伏。苓。威。僊。以。充。夕。憊。則。日。中。淪。影。夜。半。能。書。地。下。徹。瞻。水。

八極……八方の極。

九空……天の中央と八方。赤鳥城……赤鳥は太陽のこと。即ち日天子の所居のこ。

紫微之殿……天帝の所居。

織女……織女星で星の名。恒娥……羿の妻で不死の名。藥を盗み食して仙となり月中に入ると稱せらるる女。

帝軒……黃帝名は軒轅、龍に乗つて天に昇ると傳へらる。

王喬……王子喬で河東の仙人、古の仙人たり。

莊鸞……莊子に説く大鸞を指す。

淮犬……犬が淮南子の仙事を説いて昇天せし故。

上。能。步。鬼。神。爲。隸。龍。駱。爲。騎。吞。刀。吞。火。起。風。起。雲。如。此。神。術。何。爲。不。成。何。願。不。滿。又。有。白。金。黃。金。乾。坤。至。精。神。丹。練。丹。藥。中。靈。物。服。餌。有。方。合。造。有。術。一。家。得。成。合。門。凌。空。一。銖。纔。服。白。日。昇。漢。其。餘。吞。符。餌。氣。之。術。縮。地。變。體。之。奇。推。而。廣。之。不。可。勝。計。

若。叶。彼。道。若。得。其。術。即。改。形。改。髮。延。命。延。壽。死。籍。數。削。生。葉。久。長。上。則。跨。蒼。蒼。而。翱。翔。下。則。躡。倒。景。而。徬。徉。鞭。心。馬。而。馳。八。極。油。意。車。以。戲。九。空。放。曠。赤。鳥。之。城。優。遊。紫。微。之。殿。視。織。女。於。機。上。要。姮。娥。於。月。中。訪。帝。軒。而。爲。伴。覓。王。喬。而。爲。徒。察。莊。鸞。之。牀。見。淮。犬。之。

列馬……馬に關係ある星のこと。
牽牛……牽牛星のこと。

東父西母……東王公、西王母といふ仙人の夫婦。

靈寶……靈寶君といへる天神のこと。

娛曲……楽しき歌。
悲引……悲しき歌。
鶴缺……葭切といふ小鳥の名。この鳥は葦原に巢を作り、風吹けば葦折れて卵を破る。よりにて下愚の惑ひをいふ。

方壺……東海にある仙山で、かつてこの仙山にて天下の異香を燒きしといふ。
豐隆……呂氏春秋に説ける陳國の醜人の名。
子都……毛詩に説ける美巧なる人の名。

迹窮列馬之厩。盡牽牛之泊。任心偃臥。逐思昇降。淡泊無慾。寂寞無聲。與天地以長存。將日月而久樂。何其優哉。如何其曠矣。東父西母。何足怪乎。是蓋吾所聞學靈寶之密術歟。
顧惟世俗。纏縛貪慾。煎迫心意。羈縻愛鬼。焦灼精神。營朝夕。食勞夏冬。衣願浮雲。富聚如泡。財邀不分。福養若電。身微樂朝。臻笑天上。樂小憂夕。迫如沒塗炭。娛曲未終。悲引忽逼。今爲卿相。明爲臣僕。始如鼠上之猫。終爲鷹下之雀。恃草上露。忘朝日至。憑枝端葉。忘風霜至。咨可痛哉。何異鸛缺。曷足言哉。其吾師之

教與汝所說之言。汝等之所樂與吾類之所好。誰其優劣。孰其勝負。
於是龜毛公。蛭牙公子。兔角公等。並啓而稱曰。我等幸遇好會。適承謙言。方知鮑塵至臭。方壺極香。擘糜之醜。子都之好。金石有隔。薰蕕無比。從今以後。專心練神。永味斯文也。

三教指歸卷中終

三教指歸卷下

假名乞兒論

蓬茨衡……草葺の家のこと。
繩樞戸……繩で繋げるとぼそのことで貧しき家のこと。
五綴木鉢……破損を繕いし鉢で、粗末な鉢のこと。
牛囊……牛の飼を入るゝ袋のこと。
馬絆……馬の尻かひ。
道神屬……道祖神に供へてある如き粗末な草のくつ。
茅座、繩牀……共に比丘十八物の中に數へらるゝもの。
軍持……軍持(Kumji)は梵語で譯して水瓶といふ。

有假名乞兒不詳何人生蓬茨衡長繩樞戸高屏囂塵仰道勤苦黍髮剃隕頭似銅盆粉艷都失面疑瓦塢容色顛顛體形叢爾長脚骨豎若池邊鷺縮頸筋連似泥中龜五綴木鉢比牛囊以常繫左肱百八楨子方馬絆而亦係右手著道神屬弃牛皮履帶馱馬索擲犀角帶茅座常提市邊乞人押頰俯羞繩牀繩負獄傍盜士抱膝仰歎破口軍持不異沽油之肩落

折頰……鼻すぢのをれまがれること。
高匡……匡は匡に同じ、高きまぶた。
顛顛……とがれるあご。
隅目……かどばつた眼。
嚙口……正しからざる口。
光明婆塞……光明能優婆塞で大布施行を行ぜし大光明王のこと。
仍行……仍は子思の名、子思の如き行跡のこと。
孔誠……論語に孔子が「疏食を飯ひ水を飲み飲を曲げて之を枕とす樂また其の中に在り」といへる言を指す。
縞幌……縞は白、幌は幔、白雲を云ふ。
太王之雄風……楚の襄王が蘭臺に遊びしときの故事で、快哉たる涼風の意。
熾帝之猛火……熾人氏の熾き火。熾人氏は始めて木を鑽つて火を取りし人。
何曾……陳國陽夏の人、性奢侈にして特に食膳に美味を食りしといふ。
子方之温裘……田子方が子思の温裘を見て狐白裘を贈りしも子思敢て受けざりし故事。

環錫杖還同賣薪之手折頰高匡顛顛隅目嚙口無鬚似孔雀貝缺唇疎齒若狡兔唇偶入市則瓦礫雨集若過津則馬屎霧來阿毗私度常爲膠漆之執友光明婆塞時爲篤信之檀主或登金巖而遇雪坎壈或跨石峯以絕糧輒軻或晒雲童娘懈心服思或觀許倍尼策意厭離拂霜食蔬遙同偈行掃雪枕肱還等孔誠青幕張天不勞房屋縞幌懸嶽不營幃帳夏則緩意披襟對太王之雄風冬則縮頸覆袂守熾帝之猛火橡飯茶菜一句不給紙袍葛襜二肩不蔽一枝逍遙半粒自得不願何曾之滋味誰愛子方之温

三樂之叟……榮啓期といへる隱士が、人間と生れし樂、男と生れし樂、長壽を得し樂の三を擧げ樂んでゐた故事。
四皓之老……園公、綺里季、夏黃公、角里先生の漢代に於ける四人の高士。

手悲萬鍾 孔子の弟子の子路の故事。
參登九仞……參は曾參で曾子のこと、曾子の孝行についての故事。

大辟……死刑のこと。

虞舜周文……虞舜は舜帝のこと、周文は周の文王のこと、兩者共に至孝の範を垂れしもの。
董永……漢の董永、至孝の譽れ高き人。
伯喈……陳留國の人、至孝の譽れあり。
占筮之年……初めて仕官するとき吉凶を占筮するより仕官せんとする年をいふ。
伊周箕比……伊尹・周公且・箕子・比干のこと何れも忠臣の譽れある人。

五岳……泰・衡・華・恒・嵩の五山。
四瀆……江水・河水・淮水、濟水の四大河。

裘三樂之叟。比此有愧。四皓之老。對此非儔。形似可笑。志已不奪。

或告曰。我聞於師。天地尤靈。寔人其首。惟人勝行。惟孝惟忠。餘行萬差。此二其要。所以不毀遺體。見危授命。舉名顯先。廢一不可。又一生娛樂。惟富惟貴。百年蘭友。誰比。妻孥季悲。萬鍾唯感。逝親參登。九仞當由。仕主。今子有親。有君何爲。不養不仕。徒淪乞丐。中空雜逃。役輩辱行。忝先人陋名。遺後葉。惟寔大辟所加。君子所耻。然汝行之。親戚代汝入地。疎人見汝。掩目宜早。改心速就。忠孝。

乞兒憮然問曰。何謂忠孝乎。答曰。在閨之日。怡面候顏。先心竭力。出入告面。夏冬溫清。定省色養。謂之爲孝。虞舜周文。行之登帝位。董永伯喈。守之流美名。占筮之年。移孝盡命。犯顏諫爭。上達天文。下察地理。稽古擬今。柔遠能近。紀綱四海。匡弼一人。榮及後裔。譽流來葉。如是爲忠。伊周箕比。蓋其人歟。
假名答曰。安親匡主。如是之類。爲忠爲孝。伏承命旨。是實雖余。不肖然猶。頗異禽獸。一念不離。五內爛裂。夫父母覆育。提挈慇懃。顧其功也。高並五岳。思其恩也。深過四瀆。鏤骨銘肌。誰敢遺忘。欲報罔極。欲反尤。

南垓……詩經小雅に出でし南垓といへる詩篇の題のこと。孝子が親に仕ふべきことを互に相戒めし詩。
 楚河……莊子に於ける莊周の故事で事の間に合ざるの意。
 吳劍……吳の季札が徐君の塚に劍を供へし故事でこれも事の間に合はざるの意。
 居諸……日月。
 好字之主……齊の宣王が音樂を好みし故事で仕官を欲する意。
 素食、尸食……ともに才徳なく空しく祿を食むこと。

厚詠南垓而懷耻。訶蓼我以含愁。見彼林鳥終日焦灼。思此泉瀨達夜爛肝。常歎楚河未決。周鮒就肆。吳劍未許。徐子臨墓。老親幡幡。臨近冥壤。此余頑頑。反哺無由。居諸如矢。迫彼短壽。家產澆漓。墻屋向傾。二兄重逝。數行汎瀾。九族俱匱。一心潺湲。起慷慨之思。以日繼月。興悽愴之痛。從旦達夕。嗟呼悲哉。進而欲仕。已無好竽之主。退而欲默。亦有待祿之親。歎進退之惟谷。纏起居之狼狽。則作頌寫懷曰。
 肆力就畝。曾無筋力。扣角將仕。既無甯識。無智在官。致譏空職。有貪素飡。遺誠尸食。

濫竽姦行……齊の宣王の故事で才能なくごまかしによつて祿を食みしこと。
 孔縱聖……孔子は天のゆるせる聖人。
 泰伯……吳の泰伯が親の心を察して髪を斷つて刑蠻に入り王位を避けし人。
 虎食……釋尊が前世の摩訶薩埵時代に飢虎に身命を捧げし故事。
 羅卜……目連尊者の前身の名、目連尊者が父母を餓鬼道の苦より救ひし故事。
 那舍……羅閱祇園の那舍長者が父母を餓鬼の苦より救ひし故事。

濫竽姦行。已尤非直。雅頌美風。但聞周國。彼孔縱聖。栖遑不默。此余太頑。當從何則。欲進無才。將退有逼。進退兩間。何夥歎息。於是頌詞取畢。沈吟良久。乃作書曰。
 僕聞小孝用力。大孝不匱。是故泰伯剃髮。永入夷俗。薩埵脫衣。長爲虎食。父母致倒地之痛。親戚有呼天之歎。因此而視毀二親之遺體。致九族之念傷。誰復過此。二子哉。當如卿告。並犯不孝。雖然。泰伯得至德之號。薩埵稱大覺之尊。然則苟合其道。何拘近局。羅卜之拔母苦。那舍之濟父憂。寧非大孝哉。亦非善友。

子門……漢の子公がその門を高うして善因を待ちし故事。
 嚴墓……嚴延年の母が祖先の墓地を掃除して惡因果を待ちしといふ故事。

六府……三焦・胃・大腸・小腸・膽・膀胱。
 八萬之衆……華嚴經無盡藏品に説く所の身中の八萬の虫のこと。

哉。余雖愚陋。斟酌雅訓。鑽仰遺風。每爲國家先廻冥福。二親一切悉讓陰功。總此慧福爲忠爲孝。然卿但識筋力之應。盡身體之可屈。未視于門之應。高嚴墓之應。掃何其劣哉。然此書未委心。後當顯陳之矣。固執如是不拘。父兄不近親戚。萍遊諸州。蓬轉異境。爰雲漢星闌。六府之藏闕焉。已空石窟。儲盡八萬之衆。怒然忽窮。甌內塵飄。竈中苔充。於是思量內顯。依食住外言爲學。末不如緼綵。饑人早託。豐鄉卽發。松林赴聚落。京乘知足意。捧鉢直征。從童都無子。持佛經。到兔角舍。倚立門楹。於是逢於龜毛。與隱士論諍。

四生……胎・卵・濕・化の四生物。
 十八之亭……眼根等の六根と、色等の六境と、眼識等の六識で我身をいふ。
 五陰……色・受・想・行・識の五蘊。
 四蛇……地・水・火・風の四大をいふ。
 蟻蝮……蚊のまつげに巣くふ小さき虫。
 寰中辯……世間のみを説き、未だ出世間を知らざる談。

之戰庭各思扶如電之體。宿四生之罔。舉似夢之意。入十八之亭。築幻城於五陰之空國。興泡軍於四蛇之假鄉。甲蛛螫網。鎧蟪蛄騎。鼓虱皮而驚陣。旗蚊羽以標旅。杖我見戟。持寡聞劍。攘如霜臂。戰魍魎原。競利欲談。爭寰中辯。粵傾耳漸聆。擊目佇立。各謂我是。並言彼非。于時自思溜水微辯。燭火小光猶既。如是况吾法王之子。盍摧虎豹之鉞。拉蟪蛄之斧。遂迺砥智慧刀。涌辯才泉。被忍辱介。駕慈悲驥。非疾非徐。入龜毛之陳。不驚不憚。對隱士之旅。於焉出壘。盤桓入壁。跋扈因茲。先以

盤桓……進まざるさま。

濫觴……さかづきを浮べ
る程の少量の水。

子野……師曠の字、師曠
よく鐘の音を聞き分く
と。

秦王之鏡……秦王の秘藏
せる鏡によく人の邪心
までも照すものありと
いふ故事。
葉公之迷……龍を好みし
葉公が真に迫れる畫龍
を見て驚き失神せる故
事。
觸象之醉……涅槃經の中
の象盲が象の體の一部
分に觸れて全象を判斷
せし寓話を説けるを指
す。

孔璋檄示以魯陽書將帥悚懼軍士失氣面縛降服
無勞血刃但野心難改情懷猶豫即流淚摩首含悲
喩曰夫舉鱗濫觴曾無由見千里之鯤翥翻籬籬何
能知有九萬之鵬是故海上頑人疑如魚木山頭愚
士怪如木魚則知非離朱明無人見毫末非子野聰
何能別鐘響咨呼見與不見愚與不愚何其遙隔哉
吾聞汝等論譬如鏤冰畫水有勞無益何其劣哉龜
毛之龜脚未可為短隱士之鶴足不足為長汝等未
聞覺王之教法帝之道乎吾當為汝等略述綱目宜
鑒秦王顯偽之鏡早改葉公懼真之迷俱醒觸象之

師吼之道……涅槃經に説
ける故事で如來の説法
をいふ。
儒道迦葉……佛説空寂所
問經及び天地經に迦葉
をして老子となし、儒
童を孔丘となすの故事。
二儀之膚……天地陰陽の
世間的淺き道理。
十世……過去、現在、未
來の三世に各々三世あ
りて九世、それに總世
を加へて十世となる。
多物……比丘の十八物を
いふ。

波旬……梵語の波卑夜
(Rāhu)の訛り、譯し
て惡者、天魔といふ。

六道……地獄・餓鬼・畜
生・修羅・人・天。

醉並學獅吼之道。儒童迦葉並是吾朋。愍汝冥昧。吾
師先遣。然依機劣。淺示二儀之膚。未譚十世之理。而
各執殊途。爭舉旗鼓。豈不迷哉。
隱士答曰。吾熟視公。已異世人。視頭無一毛。視體持
多物。公是何州何縣誰子。誰資
假名大笑曰。三界無家。六趣不定。或天堂為國。或地
獄為家。或為汝妻。或為汝父母。有波旬為師。有外
道為友。餓鬼禽獸。皆是吾汝。父母妻孥。自始至今。曾
無端首。從今至始。安有定數。如環擾擾於四生。似輪
轟轟於六道。汝髮如雪。未必為兄。吾鬢如雲。而亦非

南閻浮提陽谷……南閻浮提は本來は印度をいふのであるが今は五大州全部を指す。陽谷は日本のこと。

玉藻所歸之島……讚岐のこと。

三八春秋……二十四歳。

牛頭馬頭……大佛頂經に無間地獄に入るに牛頭の獄卒、馬頭の羅刹、手に槍稍を執つて城門に入るとあるをいふ。

前生之醉……涅槃經壽命品廿七の寓話で生死の迷の意。
八十權……釋尊一化八十年の權迹をいふ。
三十化……三十歳成道の化儀をいふ。

弟。是。汝。與。吾。從。無。始。來。更。生。代。死。轉。變。無。常。何。有。決。定。州。縣。親。等。然。頃。日。間。利。那。幻。住。於。南。閻。浮。提。陽。谷。輪。王。所。化。之。下。玉。藻。所。歸。之。島。橡。樟。蔽。日。之。浦。未。就。所。思。忽。經。三。八。春。秋。也。

隱。士。大。驚。曰。何。謂。地。獄。天。堂。乎。何。爲。煩。持。衆。物。乎。假。名。曰。作。業。不。善。牛。頭。馬。頭。自。然。涌。出。報。以。辛。苦。用心。苟。善。金。閣。銀。閣。倏。忽。翔。聚。授。以。甘。露。改。心。已。難。耳。何。有。決。定。天。獄。乎。余。前。如。汝。迷。疑。但。頃。日。間。適。遇。良。師。之。教。既。醒。前。生。之。醉。夫。我。師。釋。尊。本。願。尤。深。現。八。十。權。慈。悲。難。極。示。三。十。

結果期……當來作佛の記
沈鬱潤……たでの辛き葉を食ふ虫、又則の臭き中に住む虫のこと、外道に迷へるに譬ふ。
補處僊君……彌勒菩薩をいふ。
舊德曼殊……宿植の徳ある文殊菩薩をいふ。

微物……比丘の十八物を指す。

化。于。時。有。緣。之。衆。不。簡。龍。神。沐。甘。露。雨。榮。枯。萎。枝。授。結。菓。期。無。福。之。徒。不。論。貴。賤。不。知。辛。鼻。常。沈。鬱。潤。已。忘。醍。醐。所。以。慈。悲。聖。帝。示。終。之。日。丁。寧。顧。命。於。補。處。儲。君。舊。德。曼。殊。等。授。印。璽。於。慈。尊。教。撫。民。於。攝。臣。是。以。大。臣。文。殊。迦。葉。等。班。芳。檄。於。諸。州。告。卽。位。於。衆。庶。是。故。余。忽。承。檄。旨。秣。馬。脂。車。裝。束。取。道。不。論。陰。陽。向。都。史。京。經。途。多。艱。人。煙。復。絕。康。衢。甚。繁。徑。路。未。詳。一。二。從。者。或。沈。溺。泥。中。拔。出。未。期。或。騁。馬。奔。車。先。已。發。進。因。茲。不。弃。微。物。子。身。負。擔。糧。絕。路。迷。辱。進。門。側。乞。行。路。資。

妙高……妙高山で須彌山のこと。

溟瀚……四大海。方輿……大地。

圓蓋……天。

水兔之僞借……水兔は月をいふ。水中の月は假なる故に。

野馬之僞迹……陽炎のたちまちに過ぎ去りし迹。二六之縁……十二因縁のこと。

兩四之苦……生・老・病・死・愛別離苦・怨憎會苦・求不得苦・五蘊盛苦の八苦のこと。

三毒……貪・瞋・癡。百八……八十八使の見惑と、十使の修惑と、十纏との百八煩惱。

千金瑤質……美しき姿のこと。

黃扉……黃泉のこと。

八風……東北の炎風、東方の條風、東南の景風、南方の巨風、西南の涼風、西方の颯風、西北の颯風、北方の寒風をいふ。
楚宋之夢……楚の宋王が雲夢の臺に遊びその夜美しき神女に遇へる故事。
鄭交……鄭交甫が二人の神女に遇へるといふ故事。

爰則述懷策心賦無常之賦題受報之詞振鈴鈴之
 金錫馳喈喈之玉聲唱龜毛等曰
 熟尋峨峨妙高峴岫干漢燒劫火以灰滅浩浩溟瀚
 澆瀆滔天曝數日而消竭盤礴方輿漂蕩摧裂穹隆
 圓蓋灼燠碎折
 然則寂寥非想已短電激放曠神仙忽同雷擊况乎
 吾等稟體非金剛招形等瓦礫五蘊虛妄均水兔之
 僞借四大難逗過野馬之倏迹二六之縁誘策意猿
 兩四之苦常惱心源氤氳三毒之爛晝夜恒燔鬱蒼
 百八之藪夏冬尤繁飄埃脆體機散之朝與春花以

續紛翔風假命緣離之夕共秋葉而紛紜千金瑤質
 先尺波而沈黃扉萬乘寶姿伴寸煙而厲玄微媿娟
 蛾眉逐霞以飛雲閣的皪貝齒添露而咸零落傾城
 華眼忽爾爲綠苔之浮澤垂珠麗耳倏然作松風之
 通壑施朱紅臉卒爲青蠅之鬪蹴染丹赤唇化爲烏
 鳥之哺穴百媚巧笑姑曝骨中更難可值千嬌妙態
 腐爛體裡誰亦敢進峨峨漆髮縱橫而爲藪上之流
 芥纖纖素手沈淪而作艸中之腐敗馥馥蘭氣隨八
 風以飛去涓涓鼻腋從九竅而沸舉綢繆妻拏無異
 楚宋之夢遇神女磊何寶藏宛同鄭交之空承仙語

鷗。松風。颯。颯。吹襟。聆。忻。之。耳。更。在。何。處。玲。瓏。桂。月。
 可。憐。映。面。視。娛。之。心。亦。之。何。處。迺。知。颯。纒。羅。縠。何。應。
 愛。喜。森。萃。薜。蘿。此。常。飭。耳。楮。堂。聖。室。曾。無。久。止。松。塚。
 檟。墳。是。長。宿。里。琴。瑟。孔。懷。閔。墓。之。下。無。由。相。見。之。矣。
 婉。變。蘭。友。荒。壠。之。側。復。無。談。笑。之。理。孤。伏。落。落。之。松。
 陰。空。滅。樹。邊。獨。伴。嚶。嚶。之。禽。嘯。徒。淪。草。前。蠢。蠢。萬。蟲。
 宛。轉。相。連。斷。斷。千。狗。咀嚼。繼。聯。妻。子。塞。鼻。以。厭。退。親。
 疎。覆。面。以。逃。旋。嗟。呼。痛。哉。食。百。味。而。炯。娜。鳳。體。徒。爲。
 犬。烏。之。屎。尿。裝。千。彩。而。嬋。媛。龍。形。空。作。燎。火。之。所。燃。
 誰。可。遊。春。苑。而。消。愁。緒。戲。秋。池。以。舒。宴。筵。嗚。呼。哀。哉。

潘安詩……榮陽中車の人
 たる潘岳安仁が亡妻を
 悼みし詩。
 伯姫引……魯の伯姫の保
 母が伯姫の焼死を傷み
 て作りし歌。

詠。潘。安。詩。彌。增。哀。哭。歌。伯。姬。引。還。深。裂。酷。
 無。常。暴。風。不。論。神。仙。奪。精。猛。鬼。不。嫌。貴。賤。不。能。以。財。
 贖。不。得。以。勢。留。延。壽。神。丹。千。兩。雖。服。返。魂。奇。香。百。斛。
 盡。燃。何。留。片。時。誰。脫。三。泉。
 尸。骸。爛。草。中。以。無。全。神。識。煎。沸。釜。而。無。專。或。投。斲。巖。
 之。刀。嶽。流。血。潺。湲。或。穿。嶠。嶠。之。鋒。山。貫。胸。愁。焉。乍。轢。
 萬。石。之。熱。輪。乍。沒。千。仞。之。寒。川。有。鑊。湯。入。腹。常。事。炮。
 煎。有。鐵。火。流。喉。暫。無。脫。緣。水。漿。之。食。億。劫。何。聞。稱。咳。
 唾。之。渣。萬。歲。不。得。擅。師。子。虎。狼。颯。颯。歡。跳。馬。頭。羅。刹。
 眈。眈。相。要。號。叫。之。響。朝。朝。想。霄。赦。寬。之。意。暮。暮。已。消。

囑託閻王愍意咸銷招呼妻子既亦無絲欲以珍贖
 曾無一瓊瑤欲逃遁免城高不能超嗟呼苦哉嗚呼
 痛哉

鷄鳴之客……齊の孟嘗君
 がその食客の鷄鳴の眞
 似をよくする者の爲め
 に函谷關を逃れ得た故
 事。
 石磷……瓔珞經佛母品に
 説かれたる譬石劫のこ
 と。
 芥……智度論三十八に説
 かれたる芥子劫のこと。

誰覺鷄鳴之客早消閉關之勞何求狗盜之子克拯
 極刑之刃謀窮途極千悔千切石磷芥盡已增叫吽
 嗚呼痛哉嗚呼痛哉吾若不勉生日蓋羅一苦一辛
 萬歎萬痛更凭誰人勉之勉之
 於是龜毛等百斛酢梅入鼻爲酸數斗茶蓼入喉爛
 肝不假吞火腹已如燒不待刀穿胸亦似割哽咽悽
 愴涕泣漣漣躡踴倒地屠裂憩天如喪慈親似失愛

劉石……博物志第十に記
 せる寓話で劉玄石なる
 ものが千日間醉の醒め
 ない酒を飲み、家人知
 らずして葬る。後に酒
 家至りて塚より玄石を
 掘り出せしに玄石は醉
 ざめの姿であつたと。
 高宗之遺喪……高宗は殷
 の中興の王武丁のこと、
 王武丁父死して默然と
 して言はざること三年。

指南……指南車が方角を
 教ゆる如く、教示をい
 ふ。

姬孔……姫は姫の姓たる
 文武、周公のこと。孔
 は孔子。

偶一則懷懼失魂一則含哀悶絕假名則探瓶咒水
 普灑面上食頃蘇息似醒不言如劉石之出塚似高
 宗之遺喪良久二目流淚五體投地稽顙再拜曰我
 等久翫瓦礫常耽微樂譬如習辛蓼葉忘臭廁屎覆
 盲目以進險道驚蹇驚而向冥途不知所投不知所
 陷今偶賴高論之慈誨乃知吾道之淺膚噬臍以悔
 昨非碎腦以行明是仰願慈悲大和上重加指南察
 示北極
 假名曰俞矣咨咨善哉汝等不遠而還吾今重述生
 死之苦源示涅槃之樂果其旨也則姬孔之所未談

老莊……老子と莊子
 四里……預流果・二來果・
 不還果・阿羅漢果
 獨……緣覺のこと
 一生……一生補處の菩薩
 等覺の位をいふ
 十地……歡喜地・離垢地・
 發光地・焰慧地・勝勝
 地・現前地・遠行地・
 不動地・善慧地・法雲
 地

三有……欲有・色有・無
 色有
 四天表……四洲の外

老莊之所未演其果也則四果獨一所未能及唯一
 生十地漸所優遊耳諦聽能持舉要撮綱略示汝等
 龜毛等並避席稱曰唯唯靜心傾耳恭專仰說
 粵則開心藏鍵振舌泉流正述生死海之賦兼示大
 菩提之果曰
 夫生死之爲海也纏三有際彌望罔極帶四天表渺
 瀾無測吹噓萬類括總巨億虛大腹以容衆流闢鴻
 口而吸諸沍襄陵之汰洶洶不息凌崎之浪濤濤相
 逼磕磕霆響日日已衆鞞鞞雷震夜夜既充衆物累
 積群品夥藜何怪不育何詭不豐

其鱗類則有慳貪瞋恚極癡大欲長頭無端遠尾莫
 極舉鰭擊尾張口求食吸波則離欲之船撞摧帆匿
 吐霧則慈悲之舸橫折人殞且泳且涵志意不式或
 饕或餐心性非直如壑如溪後害不測若鼠若蠶匪
 隱匪惻共忘千劫之蹉跎並望一涯之貴福
 其羽族則有諂誑諛諛誹謗羸惡嗜嗜嚙吮籛條惡
 作整翮背道高翥赴樂碎旬四倒之浦沸卉十惡之
 澤彫啄正直之菱唼喋廉潔之藿見鳳見鸞仰豫嚇
 嚇擊鼠擊犬俯則咋咋且飛且鳴營現前之潤屋或
 痛或死忘未來之苦酷豈知鴈門之坂織羅張列昆

千劫蹉跎……千劫もの長
 き間惡趣の苦惱を受く
 ること
 四倒……常・樂・我・淨
 の四顛倒
 十惡……殺生・不與取・
 欲邪行・虛誑語・離間
 語・惡惡語・雜穢語・
 貪欲・瞋恚・邪見
 正直之菱……菱の實が兩
 角あるを以て正直にし
 て曲らざるに譬ふ
 廉潔之藿……藿は香草な
 るを以て廉潔にして汚
 れざるに譬ふ
 鴈門之坂……支那北方の
 鴈門山には網を張り回
 らして飛鳥を捕るよ
 りて無常と受報に譬ふ

昆明之池……長安の西南にある池。黏微……とりもちと大更贏、養由……一頁の註参照。

玄虛之神筆……字は玄虛名は木華、晋の人に於て名文を以て著はれ、世に神筆とも靈翰とも稱せらる。郭象之靈翰……四頁註參照。五戒……不殺生・不偷盜・不邪淫・不妄語・不飲酒。十善……不殺生・不偷盜・不邪淫・不妄語・不綺語・不惡口・不兩舌・不慳貪・不瞋恚・不邪見。

明之池。黏微普設。更贏之箭。前來碎首。養由之弧。後放流血。若其雜類。則有憍慢忿怒。罵詈嫉妬。自讚毀他。遊蕩放逸。無慚無愧。不信不恤。邪姪邪見。憎愛寵辱。殺害之黨。鬪鬪之族。同形異心。別類殊目。鋸爪鑿齒。少慈。飡穀。眈眈虎視。游朝露之麓。睢睢獅吼。戲夜夢之谷。遇者奪氣。拔精塗腦。碎腸見者。身慄心悚。腹腹讐伏。如是衆類。上絡有頂。天下籠無。間獄觸處。櫛比每浦。連屋。玄虛之神筆。千聚難陳。郭象之靈翰。萬集何論。因茲五戒之小舟。漂猛浪以曳曳。掣掣於羅刹津。十

六度……布施・淨戒・安忍・精進・靜慮・般若。八正……正見・正思惟・正語・正業・正命・正精進・正念・正定。七覺……念・擇法・精進・喜・輕安・定・捨の七覺支。四念……身・受・心・法の四念處。雙子……舍利弗のこと。龍女得果……法花經第五提婆品に曰く、龍女寶珠を佛に獻ぜし後、男子に變じて成佛すと。三祇……三大阿僧祇劫。十重……異生性・邪行・闇鈍・細惑現行・下乘涅槃・粗相現行・細相現行・無相加行・不修行・法未自立の十障。二轉……煩惱を轉じて菩提を、生死を轉じて涅槃を得ること。四鏡……如實空鏡・因熏習鏡・法出離鏡・緣熏習鏡。

善之椎輪。引彊邪而隱隱。軫軫於魔鬼隣。是故自非發勝心。於因夕仰。最報於果晨。誰能拔森森之海底。昇蕩蕩之法身。誠須六度之筏。解纜漂河。八正之舸。艤棹愛波。樹精進幢。舉靜慮颿。拒羣賊以忍鎧。威衆敵以智劍。策七覺馬。亟超沈淪。駕四念輪。高超囂塵。則許頂珠。以封疆。同彼鷲子。授記之春。奉頸瓔。以盡境。比此龍女。得果之秋。十地長路。須臾經彈。三祇遙劫。究圓非難。然後捨十重荷。證尊位於眞如。登二轉臺。稱帝號於常居。一如合理心。莫親疎。四鏡含智。遙離毀譽。超生滅而不改。越增減而不衰。踰萬劫兮圓。

軒帝堯義……軒帝は黃帝、堯は伏羲、義は伏羲。釋梵……帝釋天と梵天。

四弘……衆生無邊誓願度、煩惱無數誓願斷・法門無量誓願知・佛道無上誓願成の四弘誓願。

非相……三十二相。非形……眞如法身。八相……入胎、出胎、出家、降魔、成道、轉法輪、入涅槃の八相。四康……四諦の法。

八部……天龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦樓羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人。四衆……比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷。

滿黃滿玄……地に滿ち、天に滿つこと。一音之鸞輪……淨名經序品の故事で佛の説法をいふ。拔拈大千……淨名經第三不思議品の故事で佛の神通力を以て三千大千世界を擲げ置くこと。不削大山……涅槃經第四妙來性品の故事で佛の神通力を以て須彌山を芥子中に入るゝこと。繫腹壞……堯の世の天下泰平を歌つた故事。來蘇……殷の湯王が夏の桀王を伐ちし時の故事で善人を歓迎すること。

寂。亘。三。際。兮。無。爲。豈。不。皇。矣。哉。亦。不。唐。矣。哉。軒。帝。堯。義。不。足。採。履。輪。王。釋。梵。不。堪。扶。輪。天。魔。外。道。騁。百。非。而。非。所。毀。聲。聞。辟。支。飛。萬。是。而。非。所。是。雖。然。四。弘。未。極。一。子。沈。溝。顧。此。悵。悵。思。此。丁。寧。爰。更。百。億。應。化。班。百。億。城。假。託。非。相。示。現。非。形。曾。成。之。道。始。於。八。相。金。山。之。體。坐。於。四。康。神。光。神。使。驛。於。八。荒。慈。悲。慈。檄。頒。於。十。方。然。後。待。於。萬。類。萬。品。乘。雲。雲。行。千。種。千。彙。騎。風。風。投。自。天。自。地。如。雨。如。泉。從。淨。從。染。若。雲。若。煙。下。地。上。天。上。天。下。地。八。部。四。衆。區。各。交。連。讚。唱。關。關。鼓。騁。淵。淵。

鐘。振。磬。磬。花。飄。聯。聯。燐。燐。爛。爛。震。震。填。填。溢。目。溢。耳。滿。黃。滿。玄。履。踵。履。跟。側。肱。側。肩。盡。禮。盡。敬。心。謹。心。專。爾。廼。轉。一。音。之。鸞。輪。摧。羣。心。之。蝦。械。拔。拈。大。千。投。擲。他。界。不。削。大。山。入。於。小。芥。雨。甘。露。雨。以。誘。以。誠。班。法。喜。食。韞。智。韞。戒。悉。詠。康。哉。兮。擊。腹。壞。成。頌。來。蘇。兮。忘。帝。功。無。量。國。之。所。歸。湊。有。情。界。之。所。仰。叢。惟。尊。惟。長。以。都。以。宗。咨。咨。不。蕩。蕩。哉。大。覺。之。雄。巍。巍。焉。哉。誰。敢。比。窮。此。寔。吾。師。之。遺。旨。如。如。之。少。濼。彼。神。仙。之。小。術。俗。塵。之。微。風。何。足。言。乎。亦。何。足。隆。哉。

三途……火途(地獄)、刀途(餓鬼)、血途(畜生)。

於。是。龜。毛。公。等。一。懼。一。辱。且。哀。且。笑。任。舌。俯。仰。遂。音。
 方。圓。喜。歡。踴。躍。稱。曰。吾。等。幸。遇。優。曇。之。大。阿。闍。梨。厚。
 沐。出。世。之。最。訓。誰。昔。未。聞。後。葉。豈。有。吾。若。不。幸。不。遇。
 和。上。永。沈。現。欲。定。沒。三。途。今。僅。蒙。提。撕。身。心。安。做。譬。
 如。震。霆。發。響。蟄。蚊。開。封。朝。烏。轉。輪。幽。闇。渙。冰。彼。周。孔。
 老。莊。之。教。何。其。偏。膚。哉。自。今。以。後。剝。皮。爲。紙。折。骨。造。
 毫。刺。血。代。鉛。曝。燭。用。研。敬。銘。大。和。上。之。慈。誨。以。充。生。
 生。之。航。輅。
 假。名。曰。復。座。今。當。做。三。教。以。十。韻。之。詩。代。汝。等。之。謠。
 諤。乃。作。詩。曰。

金仙……如來は黄金色身の
大仙なる故に金仙と
いふ。
一乘……法華一乘である
が今は佛教全體を指す。

六塵……色・聲・香・味・
觸・法。
四德……常・樂・我・淨。
纓簪……冠の紐とかんざ
して官吏を指す。

居。諸。破。冥。夜。
 性。欲。有。多。種。
 綱。常。因。孔。述。
 變。轉。聃。公。授。
 金。仙。一。乘。法。
 自。他。兼。利。濟。
 春。花。枝。下。落。
 逝。水。不。能。住。
 六。塵。能。溺。海。
 已。知。三。界。縛。
 三。教。寒。癡。心。
 醫。王。異。藥。鍼。
 受。習。入。槐。林。
 依。傳。道。觀。臨。
 義。益。最。幽。深。
 誰。忘。獸。與。禽。
 秋。露。葉。前。沈。
 廻。風。幾。吐。音。
 四。德。所。歸。岑。
 何。不。去。纓。簪。

三教指歸卷下終

昭和十四年三月二十五日 印刷
昭和十四年四月一日 發行

定價 六拾錢

編者 高野山大學出版部
代表 兒玉雪玄

發行者 和歌山縣伊都郡高野町高野山
兒玉雪玄

印刷者 京都市下京區西洞院七條南
內外出版印刷株式會社
代表者 須磨勘兵衛

不許
複製

發行所 高野山大學出版部

振替大阪八〇八二二番

392
335

終